

# 大多喜城下を巡る

今回は、中世に築かれた大多喜城とその周辺を巡り、城下町として栄えた大多喜町の歴史に触れました。また、歴史や文化を生かした街づくりの様子をごらんいただきました。

日 時 平成22年6月12日(土)

場 所 千葉県立中央博物館大多喜城分館  
大多喜城下町通り

日 程 9:00 JR千葉駅東口NTT前 集合出発

バス移動

11:10 - 12:45 千葉県立中央博物館大多喜城分館

研究員による解説、見学

昼食

バス移動

13:15 - 14:20 大多喜城下町通り散策(徒歩1.6km)

案内人による解説、見学

バス移動

16:45 JR千葉駅東口 解散



## 【おもな見学内容】

### 1 千葉県立中央博物館大多喜城分館

- ・武器・武具や調度品、古文書など 歴史資料の見学を通じ、中世・近世の城下町の様子や武家社会の人びとの生活の様子について学びました。

### 2 城下町通り

- ・歴史的景観が残る町の様子をみて、この地が政治・経済の中心として栄えてきた経緯について理解を深めました。

定刻9時に千葉駅前大通りをバスは出発しました。知らない人同士も、途中休憩する頃には少しずつ打ち解けてきます。車中では、これから見学する大多喜城（お城が博物館になっています）と大多喜町についてのビデオをみて、「予習」をしていきました。

## 大多喜町

房総半島のほぼ中央に位置し、総面積129.84km<sup>2</sup>は千葉県の町村では最も広い。麻綿原（まめんばら）や養老溪谷は有名景勝地として有名。春にはおいしい筍も獲れる。人口は約10700人。

大手門に迎えられて



## 大多喜城

中世の大多喜城は、「小田喜（おたき）の城」と呼ばれていたようです。16世紀中ごろ、安房の里見氏の重臣正木氏が入り、以後4代にわたって上総正木宗家の居城となります。

その後1590（天正18）年に北条氏が豊臣秀吉によって滅ぼされると、徳川家康が江戸城に入り、小田喜城を家臣の本多忠勝に与えて安房の里見氏の勢力をおさえようとした。



城主は本多氏のあと、阿部・青山・稲垣氏へと引き継がれ、1703（元禄16）年に松平氏が入城します。  
（県立中央博物館大多喜城分館パンフレットより）

現在は県立中央博物館大多喜城分館として、房総の中世から近世までの武器・武具や城郭・武家社会などに関する歴史資料が展示されています。

本多忠勝 1548（天文17）年-1610（慶長15）年

忠勝は、徳川四天王の一人です。小牧長久手の戦いで、羽柴秀吉の大軍を少数の兵で抑えきった武勇で知られ、生涯57度の出陣で一度もけがをしなかったといわれる強運の名将。1590年に初代大多喜城主となり10万石を領しました。

忠勝は勇猛なだけではなく知略も備えた名将で、人望も厚かったと言われています。後年、三重県の桑名に移封され、1609（慶長14）年忠政へ家督を譲り、翌年その生涯を閉じました。



紙本著色本多忠勝像

良玄寺蔵・千葉県立中央博物館  
大多喜城分館保管資料



博物館では、学芸員が展示物について説明をしました。千葉県内にもかつてたくさん  
の大名がいて、さまざまな形状のお城がたくさんあったという説明を聞いて、びっくり  
した参加者もいらっしゃいました。皆さんのお住まいのすぐ近くにも、お城の跡がある  
かも知れません。

展示物で目を引くのは <sup>よろいかぶと</sup> 鎧兜 です。武士は、時代や身分に応じていろいろなタイプの  
鎧兜を身につけました。「紺糸威鎧（こんいとおどしよろい）」のように、江戸末期に  
鎌倉時代の鎧を模倣してつくられたものもあったということです。

実際に兜をかぶってみた方は、その重さに驚いて、「これをかぶって戦えるのかなあ。  
動けるのかなあ」と話していました。

城下町として発展していた頃の大多喜の町なみの  
様子がかき表わされた地図を見えています。江戸  
の町なみと同じようになるよう、地形に合わせて  
町なみがつくられていきました。「房総の小江戸」  
と言われるゆえんです。直角に曲がる街路や古い  
建物を、今でも見ることができます。



## 城下町を歩く

大多喜は、本多忠勝が入城したことが契機となり、城下の整備が行われ、街道に沿って商家  
や茶屋、旅籠 <sup>はたご</sup> などが軒を連ねる城下町が形成されていきました。今でも久保・桜台・新丁地区には  
往事を偲ばせる古い家並みが残されています。

町では、平成11年6月、「歴史的景観を守り、そだて、つくり、町民が親しみと愛着と誇  
りを持てるまちづくり」をめざして、条例を制定し、住宅や店舗、街頭や案内看板等歴史  
的な景観を整備しています。

城下では2グループに分かれ、町のボランティアの方々に案内をしていただきました。梅雨入り直前の強い日差しの中、古い町なみを歩きます。



### 渡辺家住宅（国指定重要文化財）



嘉永2年（1849）に建築された寄棟造りの住居です。江戸時代後期の豪商の様子を今に伝えています。

### 商い資料館



昔の生活用具や遊び道具を展示しています。江戸から明治時代にかけての大多喜町の人々の暮らしぶりがわかります。

### 大屋旅館（国登録有形文化財）



江戸時代から続く旅館で、昔はこのよう<sup>はたご</sup>な旅籠が街道沿いに軒を連ねたそうです。

### 豊乃鶴酒造（国登録有形文化財）



建物は明治7年築。出窓格子、蔵やレンガ造りの煙突が歴史の重みを感じさせます。



### 妙福寺

本多忠勝が大多喜城に入った当時は、城の南側にあり、「南の大寺」と言われていましたが、江戸時代初期に、こちらに移されました。忠勝の次男忠朝の書状が収められています。

### 良玄寺 本多家の菩提寺



忠勝は菩提所(寺)として良信寺を建立。1615(元和元)年、忠朝が大阪夏の陣で戦死すると、甥の政朝が後を継ぎ、寺の名を忠朝の法名をとって「良玄寺」と改めました。



良玄寺にある忠勝、忠勝夫人、忠朝の墓所です。大多喜城を小山の上に望む位置にあります。



バスが千葉駅前に到着。皆さん満足そうなお顔で解散となりました。千葉の魅力、何か感じていただけたものと思います。円滑な運営・進行にご協力ありがとうございました。

ぜひまた大多喜町をお訪ねください。お疲れさまでした。

## 参加者の声

- ・ 個人ではなかなか来られないところに来られとっても嬉しかった。
- ・ いろいろなお店に入ってみたかったです。
- ・ もう少し時間をかけて大多喜町を歩きたかった。
- ・ ていねいなご説明ありがとうございました。分かりやすかった。
- ・ 城下散策のガイドの案内・説明がよかった。
- ・ 大多喜城は何度か来ましたが、ほかに寄るところがなかったのでいろいろ見られてよかった。  
町の中も説明してもらえてより親しみが持てた。